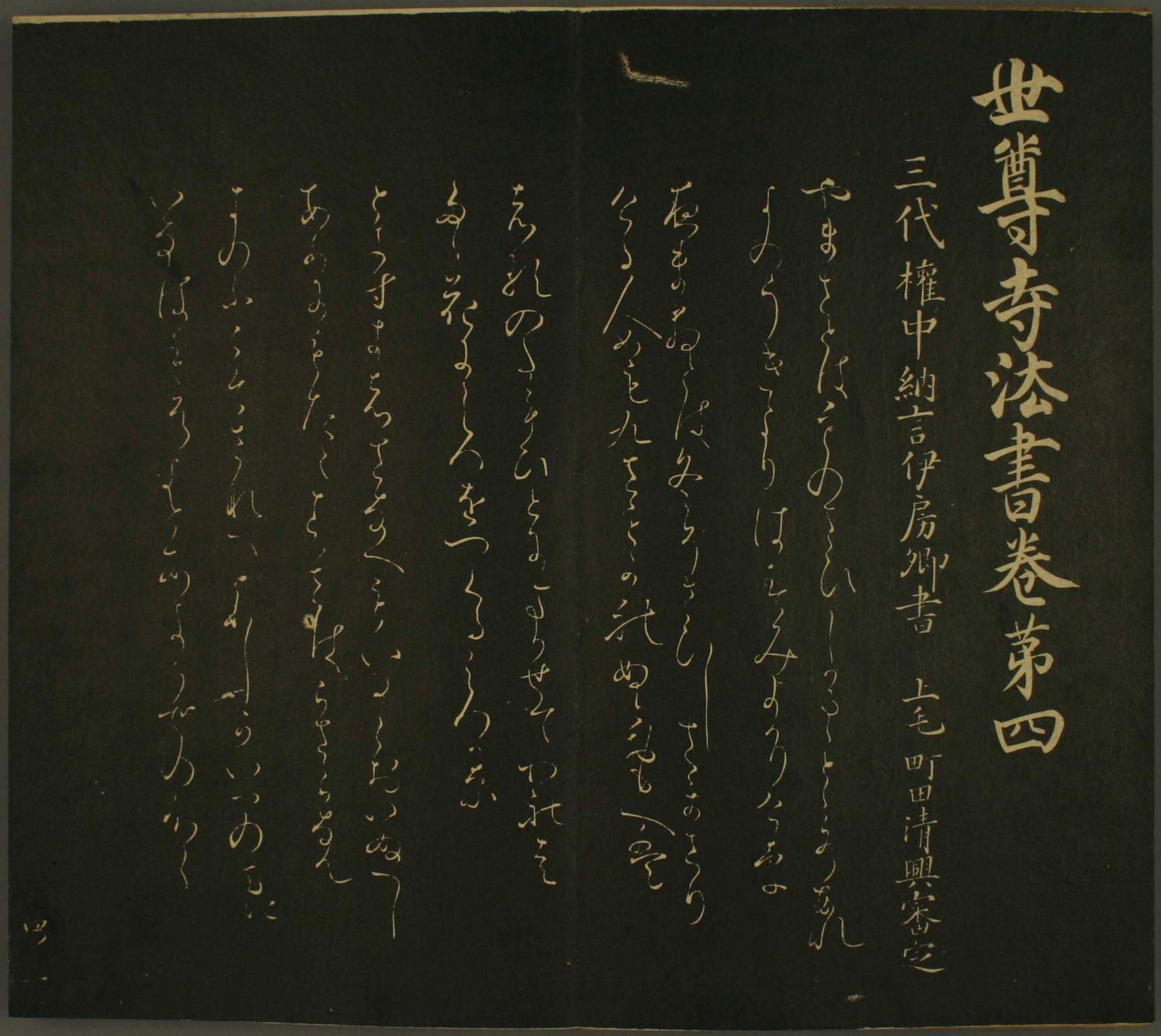
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black

宮內廳書陵部

世尊寺流書巻第四

三代権中納言伊房卿書　上毛　町田清興審定



やまのてらより伊勢の国ひのつぼ関をへて
はつかいちにまゐりよりはつかいちにまゐりよ
ゑらそうそうあそうのうちにまゐりつて
ちやうちやうはしたてまつれば
いつこよりみよとおもひしわかをもと
おもひのあひだうちにはつまをもと
よのなかはてしなきものとおもはれば
みねとわたるあまとさそはれぬ
志ほすまの人かとのみなるに
こゝろやすしともあるつまのれ
こゝろはいかゝよはほそくしと
つゝみていふまゝしのなりのなを
あのくらゐ三藏三蓋拂のほとゝぎす
わりあひをうまの先名かあるとせ上者へ

なをあらしはこのやうにいそがれん
きふしらうえのせまはまとめと
なをのえんをなをこゝやこの花をのもしを春
いまはけふとあをこゝやをのさられ
うをこゝをむうしをつゝみ
なをこゝをいをみをもをあるれ
わををみをこゝをよををしをれいを
いをこゝををりてをうをのををこゝをて
ををあをををこゝをのやををををををを
をあをのををををなをををををを

山成向背斜陽裏水似迴流迅瀬冥 春山淡 長江雲

山復山何三荊成叢叢形水後水誰

家深出碧間こゝ色　とこの月ふ

山郭遠樹雲開霧海岸孤村日霽時　春日遊ぶ　土彩

舟垣

こゝやさのこゝ　しるのいとなとより
あはをてしふ　こゝとしなくつう
くしすれこゝと

四代右京大夫定實朝臣書

春之日夏ゝ
庚紅葉曝露

之夕白雪飄而
之動以ゝく内飆
詠之年〳〵ゝく内
凱以ゝく媒華
金斯時一去一
悲年日一ゝ有勅

撥乱維顧

荒草家已変

岱ふ若被撥入

首去邪唯苗

時く恨

温官之一人まつ申さしむ

台のくらゐ身に過ぎ

四八

の跡をつがせ給ひ近花乃至登極代りめ法
ゆゑに二世にして之を伝授すること万機ゆるすなり

五代宮内大輔定信朝臣書

成五十四不実三十六相違合計一百一十
七句似目相対寛換的弁有名皆應思惟
准必繫且出依理門与目多是宗法
不実相違并於宗有多並宗法唯曰不成於
宗之名非宗法故有曰不成実無相違及不
迦与十方諸仏依善知識者蓮華のごとし
なるべして弟子か弟子誠なる人なし一応の師
ふ[illegible]二世に大願を成就せむいたく生死
おそれあるべ今生成職去乃なりとし善根
ふ[illegible]免れり後世浄土に[illegible]ものとせむ

六代宮内卿伊行朝臣書

和漢朗詠抄上

春

立春

遂吹潛開不待芳菲之候遠春下爰物
希雨露之恩 立春日内園之花紙

池凍東以風渡解窓梅北面雪封寒 萬代

ゝ一のはるたちぬれば
ちとせのうめもさきにけるかな

在原文方
ちとせ春年

柳無宗力除冬動池有波交氷忠開

うてしたちてもすましみぬまの
はるたつ事はたれかしらなん

早春

氷消田堤蘆錐經春八枝條柳眼低　元

いとゞしく雪ふのくりつれさらしの
もしいつくるかなすりけるり　志賀直子

山風ゆとくるこゝにほのぶこゝに
うちいつるなるやうるれたつるし　晋流

こわらもはひらのたるはゆふくいて
わるれつむハくのはなりこゝり

春興

花下感懷日美人景樽前勿辭迷春　白

ゆしきの大家人はいくこゝのれ
さくこゝかゝしこゝ一美人
重は牡丹ゆて花盛山のくけく

[illegible]

春夜

背燭無憐深夜月踏花同惜九年春

たるのよはやうやうけふ後の梅花いろいろ

見ゆ香やはく落ちる　元稹

子日

傍杖根以摩腰習風霜之難犯和葉

羨元稹口翻味之光調也　節

傍杖根摩腰習風霜難犯和葉羨元稹口翻味之光調

花梅者二月之雪也　菅家

なほ寒しとはいへどもこゝ下つ枝なりかもとは

ちよのためとて行末の春　為人

千年をへて春の松を
手にとりて見るにつけても
なみだのみ出るかな
ひとへにちよのかげぞ恋しき

岩井栄

野中老菜世事推て蕪心鑑不和義俗

人麿の英指

あすはかれつゝもむ夫花も
河とゝ民屋はけるく民命
明日からの若菜四つもむ
きめるもとゝ事ゝ四つの
月てみね人もの分ふくるの世

こゝろなつかしつゆのわかれかな　芭蕉

三月二日付板

春来遍是桃花水　不辨伊原何家路　子規

ゆくとしにたなびくやまのしらくもは
なごりをしさのかたみなりけり

暮春

林水柳花五月雨　陸鷺吾妻二月雨　芭蕉

いつつたゝすくす月のはるかぜ
たれのこゝろにすくるとはなく　異風

三月尽

留春に不証書改人寒窓鼠　自

風起花蕭索

まのうらとるばかりなるたま
ゆうとゝやまさくらはなのけはひ三章
さかりなるはちすはいくさかる花
もゝはなりこゝろなるかぜ実
まつもるゝしらさきうたのあれ

秋をしらあるかぎりなきあき春成 四之

四月三日

中幸四在春三月初見全陵一月花 浮信花

さくらたるしるしるしるしるしるしるも
人はしらるあれはかるる

鷺

青柳は枝ゆるこゝろ春快為はるる

てゆけば玉敷ぶるみぎり　仁勢

梅

白行落梅浮泗水昔物新析出城墻　白

いとすてうたかりしてうつりかはれ
わのうえにもむかはをれそまに
ぬせこいろもしとおもひしむかの花
をれとんをうをはゆまのあらはを
こゆはとゆてつれおもうをむいめを
あやなりすすたたちをいをてりをを

紅梅

梅合鶏合色紅京江異瑰花紫瑰交　元

さうをなりてたれすのをもいめをを
いををしつはもをるををしるを別

色香ともに世にすぐれたる花なれば人のめでまほしがるべし

川柳

林鶯の百囀吟筆極橋柳誰家礫糊塗

八重なれやしたなびかなよのなかふるいとしいとうとけるかれ

あるやまれいとまれにこそ見ぬ人のうらみをかこちぬるかな

ふるさとの花のさかりはいかばかりたがかはるとかはるとけるる

花

遥見人家花便入不論貴賤自親疎

よのなかにたえてさくらのなかりせば
たゞのこゝろはのどけからまし　業平

落花

落花不語空辞樹流水無心自入池　白

さくらちるこのしたかぜはさむかりて
うらにぞ春はかなしかりける

躑躅

晩春尚明紅一枝房初結日英蕾　白

おもてにいつるさきはのたゝまりてこゝろ
いたるはくうあれとうきとのを

歎老

書窓有月相収拾詩紙無久未章句　白

我やとはやへ咲まさるは秋の雨
ちりのこりたるむさしの花の五郎

藤

園撥慈悲三月屯紫散花滝雪開く　白

しらゝのうらはすゝきさかりにはふかるゝ
こゝろしてゆくもしらぬ人のあり　俊九

白

秦皇鴉狩茲丹之吉日　高乃漢之帝高唐
藥出ゝ来時禍蹶　白紙
銀行塗朗素秋つゝ又見林間白露間
毛寶龜放寒浪庭日仏文士　晩菊
三泉洲月色清海之花雲膚白雪

雲鶴沙鷗皆可愛唯恨手
蹟漸疎然

しらしらしらけたる
さしつさしけるゆうべ
かけてもあるか
折

和漢朗詠抄下

永徳元年二月二日

右筆蹟
同業少納言行

寛政八年丙辰五月上毛持田循

勒成好古堂